

August 5, 2020

【前日の為替概況】ドル円、3日ぶり反落 106円台では戻り売りたい向きも多い

4日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反落。終値は105.72円と前営業日NY終値(105.95円)と比べて23銭程度のドル安水準だった。米系短期投機筋のショートカバー主導で22時前に一時106.20円と日通し高値を付けたものの、106円台では戻りを売りたい向きも多く失速した。前日の高値106.47円が目先レジスタンスとして意識されたほか、「106円台には国内輸出企業の円買い・ドル売り注文が観測されている」との指摘もあった。米国で新型コロナウイルス対策の追加経済対策を巡る与野党協議が難航するなか、米10年物国債利回りが一時0.5036%前後と3月9日以来約5カ月ぶりの低水準を付けたことも円買い・ドル売りを促し、105.64円と日通し安値を付けた。もっとも、前日の安値105.58円を下抜けることは出来なかった。

ユーロドルは3日ぶりに反発。終値は1.1803ドルと前営業日NY終値(1.1762ドル)と比べて0.0041ドル程度のユーロ高水準だった。NY序盤は対ポンド中心にドル買い戻しが進んだ流れに沿って一時1.1721ドルと日通し安値を付けたものの、前日の安値1.1696ドルが目先サポートとして働く一転買い戻しが優勢に。米長期金利の低下に伴うドル売りも入り一時1.1803ドル付近まで持ち直した。ただ、日本時間夕刻に付けた日通し高値1.1806ドルを上抜けることは出来なかった。

ユーロ円は小反発。終値は124.77円と前営業日NY終値(124.64円)と比べて13銭程度のユーロ高水準。ドル円の下落につれた円買い・ユーロ売りが先行し一時124.27円と日通し安値を付けたものの、ユーロドルの持ち直しにつれた買いが入ると124.80円付近まで上げた。

南アフリカランドは軟調だった。対円では一時6.06円と5月22日以来の安値を付けたほか、対ドルでは17.5353ランドと6月1日以来の安値を更新した。新型コロナ感染拡大による南ア経済への打撃は大きく、景気低迷の長期化懸念が高まった。金価格は史上最高値を更新しているものの、金産出国である南アの通貨の支えとはならなかった。

【本日の東京為替見通し】リスク要因増加での米金利低下がドルの上値抑えるか

本日の東京時間のドル円は、上値が限られる展開になりそうだ。先週金曜日からのドルの買い戻しの調整も、ここ数日の値動きを見る限りひと段落がついてきているようにも見える。この数日、本邦勢を中心に106円台では売り予約をおさえ、昨日は106.20円まで売りオーダーが下がってきていた。来週から始まるお盆休暇を前に、本邦勢の売り意欲は根強く、仮に106円台まで戻す局面があったとしても、今週の月曜のように簡単に上昇するのは難しいだろう。

ドルの上値を抑える要因としては、米金利の低下があげられる。新型コロナウイルスへの追加支援策の協議が米議会で難航していること、全米でのウイルスの感染拡大、米国の格付け見通しの引き下げ、米中関係の悪化、そしてそれに加えて昨日はレバノンでの大規模爆発など、米国内外ともに地政学リスクの高まりで、安全資産とされる米国債への買い需要が旺盛なことで、米金利の低下基調が続くそう。なお、日本時間早朝にトランプ米大統領が「雇用に関し、金曜日に大きな数字がでる」と発言し、今週末の米雇用統計への期待を持たせる発言をした。しかし、発言後に市場がドル買いに反応しなかったのは、実際に雇用統計が好結果だった場合に株価が反応することはあっても、為替でドル買いになるのは難しいことを示唆しているだろう。

一方、ドルの下値を支えるのは、ここ数日の需給を見ていると上値では本邦勢の売りが抑えている反面、下値でも本邦投資家を含め買い需要がそれなりに継続していること。日本国内でのウイルス感染拡大も深刻なため、円を積極的に買うことに躊躇する投資家も多く、下落局面でのドル買いは今後も観測されそう。

ドル円以外では、ポンドの値動きに注目したい。明日、英イングランド銀行が金融政策委員会(MPC)終了後に政策金利を発表する。結果発表を翌日に控え様々な憶測が流れていることもあり、昨日同様にポンドの動きが市場を引っ張る可能性が高いことを警戒しておきたい。

本日発表される経済指標は、東京時間では7月Caixin中国サービス部門購買担当者景気指数以外は主だったものの発表予定はない。ここ最近では各国が中国離れに傾いていることもあり、中国の経済指標での反応は限られたものになりそう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 07:45 ◎ 4-6月期ニュージーランド(NZ)失業率(予想:5.6%)
◎ 就業者数増減(予想:前期比▲2.0%/前年比▲1.2%)
- 10:45 ◎ 7月Caixin中国サービス部門購買担当者景気指数(PMI、予想:58.0)
- 16:50 ◎ 7月仏サービス部門購買担当者景気指数(PMI)改定値(予想:57.8)
- 16:55 ◎ 7月独サービス部門PMI改定値(予想:56.7)
- 17:00 ◎ 7月ユーロ圏サービス部門PMI改定値(予想:55.1)
- 17:30 ◎ 7月英サービス部門PMI改定値(予想:56.6)
- 18:00 ◎ 6月ユーロ圏小売売上高(予想:前月比5.9%/前年比▲0.5%)
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 21:15 ☆ 7月ADP全米雇用報告(予想:120万人)
- 21:30 ◇ 6月カナダ貿易収支(予想:9.0億カナダドルの赤字)
- 21:30 ◎ 6月米貿易収支(予想:501億ドルの赤字)
- 22:45 ◎ 7月米サービス部門PMI改定値(予想:49.6)
- 22:45 ◎ 7月米総合PMI改定値
- 23:00 ☆ 7月米サプライマネジメント協会(ISM)非製造業指数(予想:55.0)
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 6日06:00 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、討議に参加
- 6日06:00 ☆ ブラジル中銀、政策金利発表(予想:2.00%に引き下げ)
- 英中銀金融政策委員会(MPC、6日まで)
- 米財務省3年、10年、30年債入札条件

6日

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況(週次・報告機関ベース)

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

4日 06:17 エバンス米シカゴ連銀総裁
「見通しのベースラインとして2020年の終わりに米国の失業率は9.5%、2021年は6.5%と予測」
「より悲観的な予測の可能性が高い」
「失業給付などの財政支援を延長がないと総需要の問題が発生する」
「インフレが2.5%に達しない限り、金利を上げる必要はない」

4日 06:18 ペロシ米下院議長(米民主党)
(協議中のコロナ追加支援策について)
「今週中の合意を望むが、おそらく来週までは合意できないだろう」

4日 07:14 トランプ米大統領
「恒久的なロックダウンは新型コロナの封じ込めに向けた実行可能な道ではない」
「コロナワクチンは年末よりかなり前にできる可能性がある」

4日 13:30 オーストラリア準備銀行(RBA)声明
「完全雇用への進展が見られ、インフレが2-3%の目標範囲内で持続可能と確信するまで利上げはしない」
「緩和的なアプローチは必要な限り維持する」
「利回りの誘導目標は完全雇用とインフレの目標達成に向けて進展が見られるまで維持する」
「5日に債券購入を再開」
「必要に応じて追加購入を行う」
「ビクトリア州でのコロナウイルスの感染拡大は州経済に大きな影響を及ぼしている」
「基本的なシナリオでは、ビクトリア州でのさらなる雇用喪失と他の地域での雇用希望者の増加により、2020年後半に失業率は約10%まで上昇」

4日 17:37 レーン ECB 専務理事兼主任エコノミスト
「欧州中央銀行(ECB)は、ユーロ圏の景気回復のために全力を尽くす」
「先行きの見通しは依然として不透明」
「景気のスラックは、高水準のまま」
「新型コロナウイルス感染者が再び増加傾向にあることで、景気回復は緩慢となる可能性」

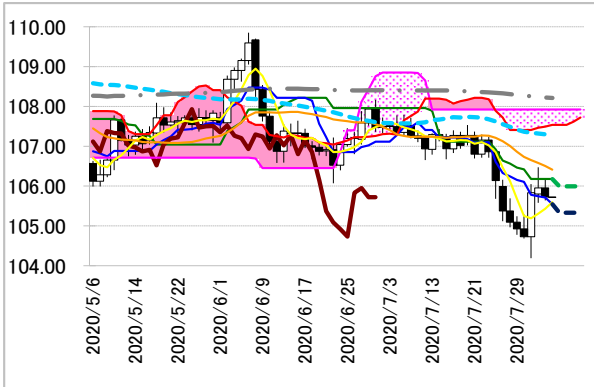
4日 23:57 シューマー米上院院内総務(民主党)
「コロナ追加対策を巡る政権側との協議、やっと正しい方向に動きだした」

5日 02:33 米ホワイトハウス報道官
「民主党はコロナ追加対策協議を完全に無駄にしている」
「トランプ政権は4つの提案をしたが、民主党からの提案はない」

5日 03:38 マコーネル米上院院内総務(共和党)
「共和党上院議員の中で意見の相違がある」
「総合的な解決策を求める」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

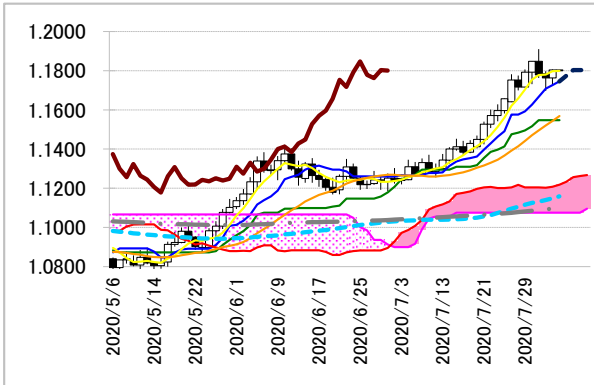


<ドル円＝基準線付近が重く上伸できず>

上影小陰線引け。一目均衡表・基準線付近が重く、容易に上伸できなかった。

一目・転換線 105.55 円は低下中で、下押しが続いた場合に同線付近で一時的に下落の流れが停滞することはあっても、強いサポートになると考えにくい。3日安値 105.58 円を割り込み下落に勢いがついた場合、フィボナッチリトレースメントで算出した 61.8%押し水準などをめどに、105 円付近を試す展開もあるか。

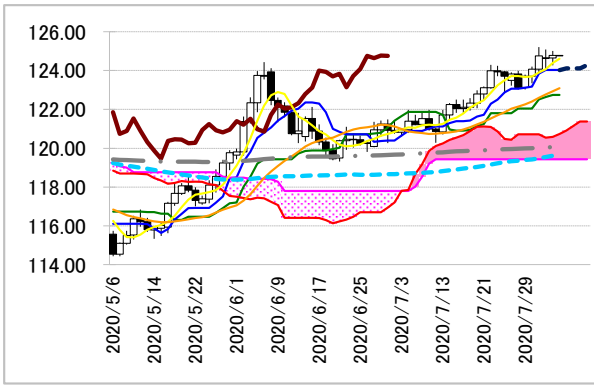
レジスタンス 2	106.41(21 日移動平均線)
レジスタンス 1	106.18(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	105.72
サポート 1	105.06(7/31-8/3 上昇幅の 61.8%押し)



<ユーロドル＝転換線の頭打ちから下押し展開も視野>

下影陽線引け。上昇中の一目均衡表・転換線付近で底堅さを示し、1.18 ドル付近を維持している。ただ、支えとなる転換線は、現状からすれば今週末 1.1803 ドルまで水準を上げたところで頭打ちの公算。相場が上昇の勢いを緩める示唆ともいえる。7月31日つけた年初来高値を抜けられず、いったん 1.17 ドル割れを試す展開も視野に入れおきたい。

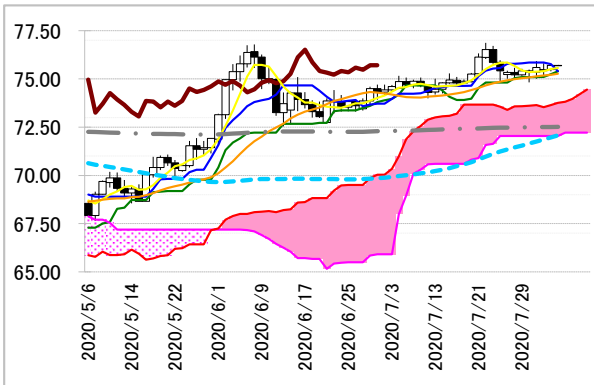
レジスタンス 1	1.1862(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.1803
サポート 1	1.1745(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロ円＝転換線のを支えとした底堅い推移が続きそう>

下影小陽線引け。125 円台で伸び悩んでいるものの、サポートとなる一目均衡表・転換線の上昇継続が見込まれ、同線を支えとした底堅い推移が続きそう。転換線を割り込んでも、7月30日に下げ渋り長めの下ひげを形成した際の安値 123.34 円や、123.09 円前後で上昇中の 21 日移動平均線、一目・基準線 122.74 円といった水準が下値を支えるとみる。

レジスタンス 1	125.21(7/31 高値＝年初来高値)
前日終値	124.77
サポート 1	124.03(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円＝転換・基準線の交差水準から次の方向うかがう>

小陽線引け。頭打ちとなり低下した一目均衡表・転換線が本日 75.40 円、じり高の基準線が 75.39 円と交差目になっている両線に挟まれたレンジ中心に推移してきた相場が次に動き出す方向を見定める局面。低下傾向の転換線に戻りが抑えられる可能性はあるが、同線は明日 75.38 円までじり安となったところでいったん底打ちの見込み。下押しが軽微に済めば、再び転換線と基準線を回復し、上値を試す展開が期待できる。

レジスタンス 1	76.20(7/30-31 上昇幅の N 計算値)
前日終値	75.70
サポート 1	75.10(8/3 安値)

